

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2017年3月22日発行

編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.61

<新しいスタートに向けて授業のルールを確認を!>

読者の皆様、公立高校入試、お疲れ様でした。今年の入試の結果は、いかがでしたでしょうか。どんな感動が、また、どんな口惜しさがあったのでしょうか。悲喜交々の結果だったのでしょうか、そんな感傷に浸っている間もないのが、学習塾の宿命です。

次の学年が、受験生としてスタートします。また、新しい生徒が入ってきます。

ということで、今回は、学習の効率を上げるために最初にしてほしいことを考えたいと思います。それは、授業のルールをもう一度確認するという事です。

春期講習の最初の時間に、授業ルールを生徒にしっかり伝えるようにしたいものです。それも、できれば、一つ一つのルールの根拠も伝えてほしいと思います。

以下に主な授業ルールの項目を挙げておきます。

- 1 授業を安易な理由で休まない⇒学習の継続性が大切。やむを得なく欠席・遅刻するときは、保護者から連絡
- 2 挨拶のルール⇒基本動作の徹底が成績を上げる。
- 3 授業姿勢について
(頬杖をつかない、横を向かない、おしゃべりしない など)
⇒授業に集中するために。
- 4 宿題のやり方
(ルーチンの宿題、授業の復習の宿題、模擬テストのやり直し など)
⇒自分一人で学習することが、成績アップにつながる。
- 5 宿題を忘れたときにどうするのか。
- 6 確認テストのやり方、受け方等、また合格基準。不合格の際にどうするのか。
- 7 ノートの取り方
⇒解答欄ではなく、参考書になるように。
- 8 休憩時間の過ごし方
- 9 通塾、帰宅について。
(自転車置き場、通塾路、居残りの際の実家への電話がけ など)
- 10 塾への携帯電話の持ち込み、使用について
塾での飲食について
- 11 補習をする基準
- 12 自習室の使用時間・曜日、自習の際のきまり など

以上、ざっと項目を挙げてみましたが、いかがでしょうか。塾によって必要な項目がもっとあるかもしれません。自塾に照らし合わせていろいろ考えてみてください。

以前、ある塾の教室見学をした際、机の上にペットボトルが置かれていました。授業中、合間合間に生徒が横に置いて

あるペットボトルを飲んでいたので。昭和人間の私は、ちょっとむっとしながら、我慢して見ていたのですが、そのクラスは、どうも落ち着きのないクラスでした。

また、別の塾では、生徒が後ろに体重をあずけて椅子の後ろの足でバランスを取りながら座っていても何の注意もしない先生がいました。

個別指導のある塾では、生徒が机に突っ伏して、先生の解説を聞いていました。もう随分前に顧問先で講師が欠勤してしまい、やむを得ず私が代講の授業に入った際、「先週の宿題をやっていません」と平気な顔で言う生徒がいました。いつも簡単に宿題忘れを容認しているのが良くわかりました。

いずれの塾も生徒指導・授業ルールがほとんどなく、授業をする環境が整っていなかったのです。当然、生徒集客に苦しんでいました。なぜならば、校舎運営とは、生徒マネジメント・保護者マネジメント・講師マネジメントをしっかりと行うことだからです。それが出来ていないということは、校舎評判が落ちているということですから。

授業ルールをしっかりと決め、スタッフ・講師全員がそれを理解し、ぶれることなく職員一丸となって生徒指導をすることが必要なのです。

生徒ガイダンスや最初の授業などで、生徒にルールを再徹底するとともに、スタッフにも文書や研修などで改めてルールの確認と指導の協力を呼びかけてみてはどうでしょうか。生徒のやる気も職員のやる気もともに高まって新年度をスタートできるはずですよ。

【編集後記】 塾経営革新メンバー募集のお知らせ

3月より、MBAの会員制度をリニューアルいたしました。会員限定の情報交流会、経営勉強会など、各種の新しい特典をご用意しています。塾運営に役立つツールの配信や、弊社主催セミナーや研修のご招待・ご優待なども、これまで通り行います。

4月から情報交流会や勉強会がスタートいたしますので、この機会にぜひ、ご入会ください。

ご興味がある方は、まずはこちらをご覧ください→

<http://www.management-brain.com/keieikakusinmember.pdf>

詳細は、弊社までお問い合わせください。

お問合せはコチラ→TEL045-651-6922

Mail: mailadm@management-brain.co.jp

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.25

文科省から2月14日、幼稚園、小学校、中学校の学習指導要領改定案が発表されました。

2020年度に幼稚園と小学校、21年度に中学校に全面導入される次期指導要領には大きな変更点がいくつかありますが、われわれ学習塾事業者がもっとも注視すべきものの1つは「英語」だろうと思われまます。

現在小5から行われている「英語活動(外国語活動)」が小3から行われるようになるとともに、現在小5からの「英語活動(外国語活動)」が正式教科の「英語科(外国語科)」に、また現在高校で進行中の「原則英語授業」が中学校でも進められることとなります。

グローバル化する世界を前に世間一般が「英語」ないし「英会話」に傾き始め、それを反映して学校教育が本格的に動き始めたといつてよいでしょう。

さて、あくまでもわたしの印象ですが、われわれ塾はこうした世間一般の「英語重視」、とりわけ「英会話重視」の動きに対し、少々後れを取っているのではないかという気がしてなりません。

一例を上げましょう。

この2月、おもちゃの(株)バンダイが3歳~小6の子どもの持つ保護者700名を対象に「英語学習に関する意識調査」を行っています。

同調査によると、幼稚園・保育園・小学校以外(=学校外)で英語を勉強している子どもの割合は20.9%(5人に1人)ですが、そのうちの47.3%は「英会話教室(対面)」で勉強しており、「学習塾」で勉強している子どもは27.4%しかおりません。

また、昨年9月に(株)ジャストシステムが同じく3歳児~小6生を持つ母親1,102人に行った調査でも、学校外で英語を習っている子ども33.1%(3人に1人)のうち、「英会話・英語の専門スクール」に通っている子どもは38.6%なのに対し、「学習塾や公文」は24.4%しかおりません(本メルマガ16年11月号参照)。少なくとも小学生以下の「英語」指導では、塾は英会話教室に負けてしまっています。

なぜ負けてしまっているのでしょうか。

率直に申し上げれば、保護者や子どもの多くが感覚的に、塾の英語は「読む」「書く」に偏っていて「話す」「聞く」が疎かになっている、それでは将来あまり役に立たないと感じているからではないでしょうか。

こうした感覚、①塾は「読む」「書く」に偏している、②それでは将来あまり役に立たないのうち、とくに②はおそらくさほど間違っていないだろうと思われまます。

余談ですが、首都圏には300余校の私立中があります。そのうち今春の一般入試で英語が選択可能だった学校は94校あったそうです。14年度15校、15年度33校、16年度63校ですから急激に増えています。この先、こうした「英語」の入試科目化はほぼ全校に及ぶことになるでしょう。

ところで、ここで注目したいのは、「この1、2年の間に新設された『英語(選択)入試』では、面接やグループワークで交わす英会話を通して、受験生のリスニングとスピーキングの力(資質)を評価する私立中学校が現れたこと」(リセマム17年1月6日号)、つまりは「読む」「書く」よりも「話す」「聞く」に重点が置かれ始めたことです。

似たような変化は高校入試でも生じていて、まだ分析結果がはっきりとは出ていませんが、今春の公立入試では大阪府など多くの県で「リスニング」のウエイトが大幅に増加したといわれています。

さらに周知のように、20年度に始まる高大接続システム改革の英語でも、いわゆる4技能重視は決まっています。

このように中学・高校・大学、さらにはおそらく企業の就職試験に至るまで会話重視の傾向が高まるとすれば、「読む」「書く」重視(と思われる)の塾よりも、将来ずっと役に立ちそうな「話す」「聞く」に重点を置いて指導してくれそうな「英会話教室」に保護者や子どもの気持ちに向くのは当然ではないでしょうか。

このままでは、われわれの本業である入試準備の分野においても、「英語は英会話教室に」が当たり前になってしまう恐れさえないとはいえません。

で、わたしなりの結論です。

塾は、とにもかくにも「話す」「聞く」を前面に打ち出した「英会話コース」をもっともっとアピールすべきでしょう。さもないと、塾は「読む」「書く」に偏しているという保護者・子どもの偏見を取り除くことはできません。

このコースには塾とは別のブランド名をつけるのも検討してしかるべきでしょう。英会話の得意な講師が不足しているのなら、IT機器を使って補えば十分間に合うはずで。

次期指導要領では「話す」がさらに2つに分けられ、「話すこと(やり取り)」と「話すこと(発表)」という目標が掲げられました。より一層「会話」が重視される方向に進んでいくわけです。

なんとか工夫を凝らして英語学習希望者を自塾に引き寄せたいと思います。